

ぐり返へす。

(七)七はも進上、俺質をかぬ、貧乏人は何とこそ、質

をいて愁こそ、俺質をかぬと又でんぐり返へす。

(八)八はも進上、俺恥か、ぬ、乞食はなんとこそ、

恥かいて愁こそ、俺恥か、ぬと、又でんぐり返

へす。

(九)九はも進上、俺鉄持たぬ、百姓は何とこそ、鉄

もて愁こそ、俺鉄持たぬと、又でんぐり返へす。

(一〇)十はも進上、俺字は書かぬ、學者は何でこそ、

字書いて愁こそ、俺字か、ぬと、又でんぐり返

へす。

紀州の手毬歌。

(一)竹三本々々々、高野の山へ、竹三本、雉よ鷹よ  
明日は殿御のお廻じや、何着てお廻じや、子供し

ゆの金袴黄色に染めて 菊の花十六 十六の娘が

紙屋へ嫁入つて 紙三帖貰うて、てゝに一帖は

ゝに一帖 一帖の紙を ぎじやゝとささむで

舐の穴へおしこみへしこみしたら 鬼が三匹で、

きて 其鬼のいふことにや 機からな(からねば)

出てけ(出て行け)糸とらなで、け鬼がころゝス

ットンゝ。

(二)鶯えゝ 梅の小枝へ晝ねして 晝ねの御夢に

なんと見た ゆーべ呼んだ花嫁御 奥の座しきへ

座らして 金欄鍔子を縫はすれば ほゝろゝと

なきやんす 何かなして(悲しくて)泣きやん

す わーしや所の千松は 三ツや四ツで金堀りに

金やないやら 死んだやら 一年待つても状や来  
ず、二年待つても状やこず 三年目に状や来て 其  
状の上はかきは、小万に來いと言ふ状で、小ま

んは、中々やれません、今日小女郎をやるほどにかー飯三杯汁四杯 豆腐蒟蒻さんにやをにや。

### 保育者のため

## 幼稚園に於ける自然研究(二)

平山 ひさ

これは前掲幼稚園の遊戯と同じく「幼稚園の理論及實際」と申す書の一部で、自然研究と題されて居る項の抜萃でございます。

○幼兒は風にゆらぐ枝やそよよと動く木の葉で飾られた絶えず青い物のある庭園に置くがよろしい。こういう處では幼兒が平和に幸福に健全に發達して、周圍にある物から力ある静かな感化を受けるので、幼兒は自然といふ廣大な書物を手にしつゝ、凡ての生物の生命に向つて同情を表する様に

なる。凡そ困難な生活、うるさい人生には薔薇の香や、森の中の静かさや、松の緑などが、得も言はれぬ深き慰藉を與へるものであるが、併し何人も此世を捨て、しまつて自然をのみ友とするといふ事はできぬから、自然の方を吾々人類の方に引き寄せ近づけるといふ事は誠にあらまほしい事である。それには幼い時から「自然」と親ませる必要がある。

○自然研究と一口に言ふ中でも、地質學、結晶學、鑛物學などに屬する事柄と動物學や植物學ほどに幼兒に對して興味を惹き起すものではない。それは鑛物などには生命といふものがないから、幼兒が自分の生命にひき比べて興味を有つ愛するといふ事がないからなので、幼兒は主に生命を有つて居る生き物即ち動植物を愛するものである。併し